

左より、木地呂雲文蒔絵刀拵、重要文化財、太刀、銘、正恒、朱漆海老鞘脇指拵、黒漆牡丹文蒔絵短刀拵、「いずれも部」
作品は全て香雪美術館蔵

The Beauty of Swords
The Sword Collection of

and Their Ornate Mountings:
the Kosetsu Museum of Art

企画展

館蔵 刀剣コレクション

刃と拵の主人

こしらえ

🌙 夜間特別開館

開催日：2024年1月25日(木)、2月22日(木)、
3月14日(木)

時間：10時～19時30分(入館は19時まで)

中之島香雪美術館

Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

2024

1.6(土) — 3.17(日)



休館日：月曜日(祝日の場合は翌火曜日)

開館時間：10時～17時(入館は16時30分まで)

入館料：一般1200(1000)円、
高大生700(500)円、小中生400(200)円
※()内は前売り(一般のみ)・20名以上の団体料金

主催：公益財団法人香雪美術館

刀剣に見る、

細心精到の美。

本展では、村山が愛蔵した刀剣と、刀剣の外装である拵、拵を飾る刀装具も併せて展示します。刀剣の変化に富む鉄のきらめき、拵の個性的で華やかな装飾、刀装具の緻密で多彩なデザイン、それぞれの「美」を感じていただけると幸いです。

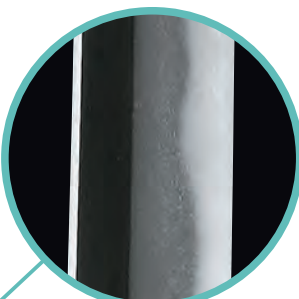
美術品を収集する際、時には識者のアドバイスを得た村山ですが、刀剣については他人に頼らず、自らの審美眼を買いました。そのコレクションは、鎌倉時代から室町時代までの古刀が多く、質実な強さをもつ直刃を基調とした刃文を好んだことがうかがえます。また、全国津々浦々の産地を網羅しており、研究熱心な姿勢が垣間見えます。

香雪美術館には、現在約五〇振の刀剣が所蔵されています。コレクションの礎を築いた朝日新聞社創業者・村山龍平（1850-1933）は、武士であった父の影響から刀剣に強い関心を持ち、若くして収集を始めました。その数は、多い時には八〇〇振にものぼったといえます。

黒漆藤文螺鈿蒔絵印籠刻鞘脇拵



螺鈿と蒔絵のきらめき



地鉄と刃文に注目!



倶利伽羅龍の刀身彫刻



蒔絵による家紋装飾



蝶形虫図縁頭

福神図小柄 銘 後藤頼乗(花押) [部分]

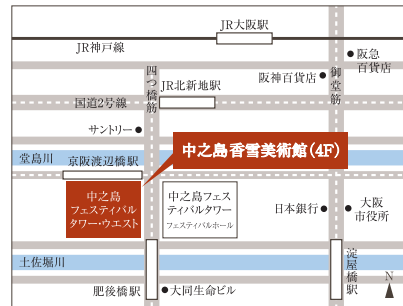


雲形花菱文散七宝鐺

重要文化財 太刀 銘 吉家作

流水花鳥図鐺

作品は全て香雪美術館蔵



中之島香雪美術館

Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4
中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階
Tel. 06-6210-3766

<https://www.kosetsu-museum.or.jp/nakanoshima/>

@kosetsu_museum

<https://www.facebook.com/n.kosetsu>



◎Osaka Metro四つ橋線「肥後橋」駅4号出口、京阪中之島線「渡辺橋」駅12号出口直結 ◎JR「大阪」駅桜橋口より徒歩約15分 ◎Osaka Metro御堂筋線・京阪本線「淀屋橋」駅7号出口より徒歩約8分 ◎JR東西線「北新地」駅11-5出口より徒歩約8分

次回展

北斎と広重 富嶽三十六景への挑戦
2024年4月13日(土)～5月26日(日)

ギャラリートーク

学芸員による展示解説
1月13日(土)、2月3日(土)、2月24日(土)
いずれも15:30～(1時間程度)

記念講演会

刀剣・拵の楽しみ方

— 香雪美術館の所蔵品を中心に —

講師：原田一敏氏
(東京藝術大学名誉教授・ふくやま美術館館長)
日時：2月18日(日) 14:00～15:30
会場：中之島会館(当館隣)
参加料：500円(展覧会観覧には別途入館料が必要)
定員：280名(予定・先着順)

●応募方法(いずれかの方法でご応募ください)

《ウェブサイト》当館HP上の専用フォームをご確認ください。

《往復ハガキ》1通で2名様まで応募可能。参加人数、それぞれの住所、氏名、年齢、電話番号を明記ください。返信ハガキの宛先には、代表者の住所・氏名をご記入ください。返信ハガキで参加証を郵送します。

【宛先】〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4
中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階
中之島香雪美術館「刀と拵の美」展 講演会係

【受付開始】2023年10月7日(土)